ナンカ／ナンテの機能と用法

言語学・応用言語学専門分野
1LT08095G
濱中　千紘
2008（平成 20）年入学
2012（平成 24）年 1 月提出

要旨

ナンカとナンテは、単に取り立て詞とだけ記述されていることが多く、一見、はっきりした区別がないように見える。しかし、本論文では、ナンカとナンテには言い換え可能な場合と言い換え不可能な場合が存在することを示し、それぞれの特性を明らかにした。まず、ナンカとナンテの直前／直後に生起する要素の制限について観察し、その観察に基づいて、ナンカとナンテの構造構築の条件をまとめた。また、意味的な側面としては、ナンテがナンカにない独自の例示機能を有することを指摘した。これは、「X ナンテ Y」という表現の場合、ナンテが Y の中から X を取り立て例示する、という機能である。さらに、ナンカとナンテの構造構築の条件の違いは、この機能の有無に起因しているということを主張した。

目次

1. 問題提起 **1**

2. 本論文の主張 **3**

3. ナンカの接続条件 **5**

3.1. ナンカの直前に生起可能な要素 **5**

3.2. ナンカの直前に生起不可能な要素 **7**

3.3. ナンカの直後に生起可能な要素 **9**

3.4. ナンカの直後に生起不可能な要素 **11**

4. ナンテの接続条件 **13**

4.1. ナンテの直前に生起可能な要素 **13**

4.2. ナンテの直後に生起可能な要素 **16**

4.3. ナンテの直後に生起不可能な要素 **17**

5. 考察 **19**

5.1. 記述のまとめ **19**

5.2. ナンカの統語的性質 **21**

5.3. ナンテの統語的性質 **26**

6. まとめ **35**

参照文献 **37**

1. 問題提起

ナンカとナンテは、交換可能であることが多い。

(1) a. 君｛なんか／なんて｝大嫌いだ。
b. 彼女と｛なんか／なんか｝話しても無駄だ。
c. 私のお父さん｛なんか／なんて｝お医者さんなんだから。
d. まだ眠たく｛なんか／なんて｝ない。
e. もう迷ったり｛なんか／なんて｝しない。

日本語記述文法研究会(2009)はこのようなナンカとナンテを評価的判断に関わる取り立て助詞だとして考察している。また、寺村(1991)は、ナンカは取り立て助詞「ナド」のくだけた表現であるとし、ナンテはナンカとよく似た形の取り立て助詞であると述べられている。ところが、(2)のようにナンカとナンテの言い換えが容認されない場合も存在する。このような観察は山田(1995)でも少し見られるが、くわしくは言及されていない。

(2) a. 彼は神様｛なんか／*なんて｝ではない。
b. 噂｛??なんか／なんて｝本当かどうかもわからないものを私は信じない。
c. 見た目｛なんか／*なんて｝に騙されるな。
d. 明日が雨｛*なんか／なんて｝うれしくない。

なぜ、ナンカとナンテで言い換えが可能な場合と不可能な場合が存在するのか。普段、(1)のようにナンカまたはナンテを用いるとき、我々は特に使い分けをしていない。このとき、一見ナンカとナンテが区別されていないように見える。しかし、(2)を見てみると、我々が意識的にナンカとナンテを区別して使っているのがわかる。つまり、ナンカとナンテが区別される理由が存在していると考えることができる。よって、度々同じもののように扱われるナンカとナンテであるが、それぞれが持つ特性によって区別が可能だと考えたい。このように考えると、ナンカとナンテは全く同じというわけではなく、ナンカが現れることができる位置とナンテが現れることができる位置や、それぞれの解釈などに差異があるということになる。では、具体的にナンカとナンテを異なるものとしている違いはどのようなものであろうか。本論文では、これらの違いを捉える為に、ナンカとナンテの例文を観察することで、(3)、(4)の問題を明らかとしたい。

(3) ナンカはどのような条件で生起可能か。また、ナンカの文中での働きは何か。

(4)　　ナンテはどのような条件で生起可能か。また、ナンテの文中での働きは何か。

次の 2 章では、ナンカとナンテの直前／直後に生起する要素について述べ、これらの問題に対する主張を述べていく。今回扱うナンカとナンテについては、井島(2008)など語用論的特徴について述べているものは多数あるが、他の要素との生起関係についての観察は少ない。

なお、以下の用法で用いられるナンカとナンテは、ナンカ→ナンテの言い換えも、ナンテ→ナンカの言い換えも容認されないため、二つは全くの別物だと考えたい。

(5)　副詞的なナンカ
　a.　｛**なんか**／*なんて｝あいつ怪しいな。
　b.　今日は｛**なんか**／*なんて｝気分が優れない。

(6)　代名詞的なナンカ
　a.　おなか減ったから｛**なんか**／*なんて｝食べたい。
　b.　今｛**なんか**／*なんて｝私に言いませんでした？

(7)　副詞的なナンテ
　a.　あの有名人｛**なんて**／*なんか｝名前だっけ？
　b.　彼女僕に｛**なんて**／*なんか｝言ってた？

(8)　感嘆詞的なナンテ
　a.　｛**なんて**／*なんか｝きれいな花なんでしょう。
　b.　彼は｛**なんて**／*なんか｝すばらしい人なんだ。

本論文では、これらの用法のナンカ／ナンテを取り立て助詞のナンカ／ナンテと厳密に区別し、ここでは扱わないものとする。なお、(5)、(6)の用法に関しては、川上(1991)にくわしく述べられている。

2. 本論文の主張

本論文では、始めに(3)の問題に対しては(9)を、(4)の問題に対しては(10)を提案する。

(9)　a.　ナンカの直前には、名詞、格助詞、動詞（テ形／連用形）、形容詞（連用形）、副詞が生起可能であり、終助詞、助動詞ダ、動詞（終止形／命令形）、形容詞（終止形／命令形）は生起不可能である。
　　b.　ナンカの直後には、名詞、格助詞、助動詞ダ、動詞、形容詞、副詞が生起可能であり、終助詞は生起不可能である。

(10)　a.　ナンテの直前には、名詞、格助詞、動詞（テ形／連用形／終止形／命令形）、形容詞（連用形／終止形／命令形）、副詞、終助詞、助動詞ダが生起可能である。
　　b.　ナンテの直後には、名詞、動詞、形容詞、副詞が生起可能であり、格助詞、終助詞、助動詞ダは生起不可能である。

ナンカ／ナンテの直前に､動詞と形容詞の連体形／未然形／已然形は生起不可能であるが、ここではあえてそこに言及していない。これは、ナンカ／ナンテの直前に、体言しか後接しない連体形や、ごく限られた要素しか後接しない未然形／已然形が生起しないのは明らかなためである。(11)-(13)で、このことを例に示す。

(11)　連体形
　a.　*この魚は骨ばかりで食べる｛なんか／なんて｝ところはほとんどない。
　b.　*あんなに汚い｛なんか／なんて｝部屋は初めて見た。

(12)　未然形
　a.　*年賀状は書か｛なんか／なんて｝ない。
　b.　*彼女の料理はおいしかろ｛なんか／なんて｝う。

(13)　已然形
　a.　*もっと早く病院に行け｛なんか／なんて｝ばよかったなあ。
　b.　*彼がもっと賢けれ｛なんか／なんて｝ば助かったのに。

このように、動詞と形容詞の連体形／未然形／已然形は明らかにナンカ／ナンテの直前に生起不可能である。次の章でもこの例を示してはいるが、(9)、(10)においては言及しないものとする。

なお、本論文では、動詞のタリ形も以下の理由から名詞に分類されると考えたい。

(14)　動詞のタリ形は主語になれる。

(15)　動詞のタリ形はダ・デアルに接続できる。

(14)、(15)はそれぞれ、(16)に示すとおりである。

(16) a.　最近、怪我したり病気したりが絶えない。
b.　「休みの日はなにしてる？」「ネットしたりゲームしたりです。」

次の章では、例を示しながら、(9)、(10)について述べていく。

3. ナンカの接続条件

3.1. ナンカの直前に生起可能な要素

(9a)では、ナンカの直前には、名詞、格助詞、動詞（テ形／連用形）、形容詞（連用形）、副詞が生起可能であると主張している。

3.1.1. 名詞

ナンカの直前には、次の例のように名詞が生起できる。

(17) a.　ここで失敗**なんか**許されない。
b.　球技は苦手だけど、かけっこ**なんか**自信があるよ。

また、動詞のタリ形もナンカの直前に生起可能であることも、ナンカの直前に名詞が生起可能であることを支持している。

(18) a.　太郎と昔みたいに話したり**なんか**できないな。
b.　きのうは歌ったり、踊ったり**なんか**して楽しんだ。

このように、ナンカの直前には名詞が生起可能である。

3.1.2. 格助詞

ナンカの直前には、次の例のように格助詞が生起できる。

(19) a.　見た目に**なんか**騙されるな。
b.　外国へ**なんか**行ったことがない。
c.　太郎と**なんか**出かけたくない。
d.　謝るのが彼女から**なんか**滅多にないよ。
e.　ハイヒールで**なんか**歩けない。

しかし、(20)のようにナンカの直前に格助詞が生起しても、容認されない場合が存在する。

(20) a.　*彼の**なんか**情けを受けたくない。
b.　*お酒を**なんか**飲めなくても気にしない。
c.　*次の委員長になるのは、彼女が**なんか**いいと思わない？
d.　*君より**なんか**彼の方がうんとがんばっているよ。

ところが、山田(1995)に見られる(21)のように、格助詞ヲに関しては生起可能だと考えられうる例も存在する。

(21)　?そんな所を**なんか**通らなかったよ。　[山田 1995: 341, 9a]

このことから、一部の格助詞の生起が容認されないのは、ナンカの生起条件とは関係のない問題であると考えたい。

3.1.3. 動詞（テ形／連用形）

ナンカの直前には、動詞のテ形と連用形が生起できる。まずは、動詞のテ形が生起する例を示す。この場合、ナンカの後には補助動詞が生起する。

(22) a.　絶対許して**なんか**やらないんだから。
　　b.　恥ずかしくて彼女の顔をずっと見て**なんか**いられない。

(23)は、動詞の連用形が生起する例である。このとき、ナンカの後にはサ変動詞「する」が生起する。

(23) a.　人の家に勝手に入り**なんか**するわけがない。
　　b.　鍵がかかってたから扉は開き**なんか**しないはずだ。

このように、ナンカの直前には動詞のテ形と連用形が共起可能である。

3.1.4. 形容詞（連用形）

ナンカの直前には、形容詞の連用形が生起可能である。次に、形容詞の連用形が生起する例を示す。このとき、「形容詞の連用形＋ナンカ＋ない」の形をとる。

(24) a.　君はつまんなく**なんか**ないよ。
　　b.　彼の絵はまったく美しく**なんか**ない。

(24)の通り、ナンカの直前には形容詞の連用形が生起可能である。

3.1.5. 副詞

ナンカの直前には、「しっかり」「ゆっくりと」などの副詞が生起可能である。(25)に、その例を示す。

(25) a.　彼ってばおっちょこちょいでちっともしっかり**なんか**してないのよ。
　　b.　こんな時なのに、ゆっくりと**なんか**走っていられない。
　　c.　太郎は小心者だから、みんなの前で堂々と**なんか**できない。

しかし、以下の例のように副詞によっては生起が容認されない場合がある。

(26) a.　*彼女は割と**なんか**食べないね。
　　b.　*太郎はかなり**なんか**元気じゃなかったなあ。

このように、ナンカの直前には副詞が生起可能であるが、副詞の種類によっては生起できない場合も存在する。

3.2. ナンカの直前に生起不可能な要素

(9a)では、ナンカの直前には、終助詞、助動詞ダ、動詞（終止形／命令形）、形容詞（終止形）は生起不可能であると述べている。以下で例を示していく。

3.2.1. 終助詞

ナンカの直前には、(27)の例のように終助詞は生起不可能である。

(27) a.　*僕はどうすればいいか**なんか**知らないよ。
　　b.　*太郎は絶対許さないぞ**なんか**言ってへそを曲げているよ。
　　c.　*マラソンで一緒に走ろうね**なんか**約束は信じない方がいい。

このように、ナンカの直前に終助詞は生起できない。

3.2.2. 助動詞ダ

ナンカの直前には、次の例のように断定の助動詞ダは生起できない。

(28) a.　*明日の大会が中止だ**なんか**聞いてない。
　　b.　*彼が優勝だ**なんか**今でも信じられない。

(29)のように、ダの丁寧表現であるデスも生起できない。

(29)　　*私があなたの本当の父親です**なんか**いきなり言われても……。

以上のように、ナンカの直前に断定の助動詞ダ（デス）は生起できない。

3.2.3. 動詞（終止形・命令形）

ナンカの直前には、動詞の終止形と命令形は生起できない。(30)の通り、動詞の終止形は生起不可能である。

(30)　a.　*これを全部食べる**なんか**無理に決まってる。
　　b.　*君が悪口言う**なんか**珍しいな。

さらに(31)が示している通り、動詞の命令形も生起不可能である。

(31)　a.　*テストで一番とれ**なんか**無茶言うよ。
　　b.　*彼ったらいつも私に痩せろ**なんか**言ってくるの。

このように、ナンカの直前には、動詞の終止形と命令形は生起不可能である。さらに、(32)-(34)が示す通り、動詞の連体形／未然形／已然形もナンカの直前には生起できない。

(32)　連体形
　　a.　*残念ながら、彼が作る**なんか**料理はおいしくない。
　　b.　*今日はお客さんがたくさん来る**なんか**日だ。

(33)　未然形
　　a.　*この箱は蓋が固くて開か**なんか**ない。
　　b.　*滅多に掃除し**なんか**ないって考えられない。

(34)　已然形
　　a.　*いつももっと早くやれ**なんか**ばよかったって思うんだ。
　　b.　*何度泣け**なんか**ども涙は枯れない。

このように、動詞の連体形／未然形／已然形もナンカの直前には生起できない。

3.2.4. 形容詞（終止形／命令形）

ナンカの直前には、(35)の例のように形容詞の終止形は生起不可能である。

(35)　a.　*彼がかっこいい**なんか**言ってたのは誰だっけ？
　　b.　*キリンは首が長い**なんか**当然だ。

また、(36)の通り形容詞の命令形も生起不可能である。

(36)　　*うちのおじいちゃんはよく美しかれ**なんか**言ってたな。

このように、ナンカの直前には、形容詞の終止形と命令形は生起できない。さらに、(37)-(39)のように、形容詞の連体形／未然形／已然形もナンカの直前には生起できない。

(37)　連体形
　　a.　*あんなに美しい**なんか**人に会ったのは初めてだ。
　　b.　*足が速い**なんか**犬だなあ。

(38)　未然形
　　a.　*彼の息子ならかっこよかろ**なんか**う
　　b.　*彼女に関しては心配なかろ**なんか**う。

(39)　已然形
　　a.　*もっと私の頭がよけれ**なんか**ばよかったのに。
　　b.　*もう少しサイズが小さけれ**なんか**ば最高だ。

このように、ナンカの直前には形容詞の連体形／未然形／已然形も生起しない。

3.3. ナンカの直後に生起可能な要素

ナンカの直後には、名詞、格助詞、助動詞ダ、動詞、形容詞、副詞が生起可能である。以下で、例を示していく。

3.3.1. 名詞

ナンカの直後には、名詞が生起できる。次に例を示す。

(40)　a.　いまや彼女**なんか**一流アイドルだ。
　　b.　彼**なんか**意気地無しだ。
　　c.　今どきカセット**なんか**貴重品だ。

このように、ナンカの直後には名詞が生起可能である。

3.3.2. 格助詞

ナンカの直後には、次の例のように格助詞が生起できる。

(41) a. この辛さが彼女**なんか**にこれがわかるわけない。
b. 海**なんか**へ行きたい。
c. 彼の顔**なんか**を見たくない。
d. 君**なんか**が花子と付き合えるわけがない。
e. 彼**なんか**と言い争いして勝てるわけないよ。

以上のように、ナンカの直後には格助詞が生起可能である。

3.3.3. 助動詞ダ

ナンカの直後には、助動詞ダが生起できる。(43)に例を示す。

(42) a. 私の趣味は走ったり**なんか**だ。
b. 昨日の晩ごはんはおひたしや魚の煮付け**なんか**だった。

(44)のように、ダの丁寧表現であるデスも同様に生起する。

(43) 特技はダンス**なんか**です。

また、(44a)のようにダと似た機能を持つデアルもナンカの直後に生起する。また、デアルの否定形、デハナイの口語表現であるジャナイも(44b)のようにナンカの直後に生起することができる。

(44) a. 君は卑怯者**なんか**ではない。
b. 僕は馬鹿**なんか**じゃない！

以上のように、ナンカの直後には、助動詞ダが生起できる。また、ダに類似したデアル、デアルの口語的な否定表現ジャナイもナンカの直後に生起できることがわかった。

3.3.4. 動詞

ナンカの直後には、次の例のように動詞が生起可能である。

(45) a. もう彼**なんか**食べ始めているよ。
b. 犬**なんか**喜んでそこらじゅうを走り回っている。
c. ひよこ**なんか**飛べないよ。

このように、ナンカの直後には動詞が生起できる。

3.3.5. 形容詞

ナンカの直後には、(46)の例のように形容詞が生起できる。

(46) a. 彼女の腹の底**なんか**真っ黒だぞ。
b. こんなお金**なんか**欲しくない。
c. あの絵**なんか**美しいわ。

このように、ナンカの直後には形容詞が生起可能である。

3.3.6. 副詞

ナンカの直後には、(47)の例のように副詞が生起できる。

(47) a. 太郎**なんか**まだ寝ている。
b. 彼女のこと**なんか**すっかり忘れてるだろうな。
c. 彼の成績**なんか**かなりひどいぞ。

このように、ナンカの直後には形容詞が生起可能である。

3.4. ナンカの直後に生起不可能な要素

(9b)では、ナンカの直後には、終助詞は生起不可能であると述べている。以下で例に示していく。

3.4.1. 終助詞

(48)は、ナンカの直後に終助詞が生起できない例である。

(48) a. *君が犯人**なんか**か？

b.　*悪いのはあいつだ**なんか**ぞ。

このように、ナンカの直後には終助詞が生起できない。

4. ナンテの接続条件

4.1. ナンテの直前に生起可能な要素

(10a)では、ナンテの直前には、名詞／格助詞／動詞（テ形、連用形、終止形）／形容詞（未然形、終止形）／副詞／終助詞／助動詞ダが生起可能であると主張している。以下で、例を見ていく。

4.1.1. 名詞

ナンテの直前には、(49)の例のように名詞が生起可能である。

(49)　a.　ここで失敗**なんて**許されない。
　　b.　球技は苦手だけど、かけっこ**なんて**自信があるよ。

また、(50)のように動詞のタリ形はナンテの直前に生起可能である。このことも、ナンテの直前に名詞が生起可能であると支持している。

(50)　a.　彼は決して倒れたり**なんて**しない。
　　b.　この氷は上等だからすぐに溶けたり**なんて**しないぞ。

このように、ナンテの直前には名詞が生起できる。

4.1.2. 格助詞

ナンテの直前には、次の例のように、格助詞が生起可能である。

(51)　a.　見た目に**なんて**騙されるな。
　　b.　外国へ**なんて**行ったことがない。
　　c.　太郎と**なんて**出かけたくない。
　　d.　謝るのが彼女から**なんて**滅多にないよ。
　　e.　ハイヒールで**なんて**歩けない。

しかし、ナンテの直前に格助詞が生起する場合、(52)のように容認されない場合も存在する。

(52)　a.　*彼の**なんて**情けを受けたくない。
　　b.　*お酒を**なんて**飲めなくても気にしない。

c.　*次の委員長になるのは、彼女が**なんて**いいと思わない？
d.　*君より**なんて**彼の方がうんとがんばっているよ。

これも、ナンカと同様に意味的な問題なのではないかと考えられる。

4.1.3. 動詞（テ形／連用形／終止形／命令形）

ナンテの直前には、動詞のテ形／連用形／終止形が生起可能である。(53)は、動詞のテ形が生起する例である。この場合、ナンテの後には補助動詞が生起する。

(53)　a.　絶対許して**なんて**やらないんだから。
b.　恥ずかしくて彼女の顔をずっと見て**なんて**いられない。

(54)は、動詞の連用形が生起する例である。このとき、ナンテの後にはサ変動詞「する」が生起する。

(54)　a.　人の家に勝手に入り**なんて**するわけがない。
b.　鍵がかかってたから扉は開き**なんて**しないはずだ。

(55)は、動詞の終止形が生起する例である。

(55)　a.　これを全部食べる**なんて**無理に決まってる。
b.　君が悪口言う**なんて**珍しいな。

(56)は、動詞の命令形が生起する例である。

(56)　a.　テストで一番とれ**なんて**無茶言うよ。
b.　彼ったらいつも私に痩せろ**なんて**言ってくるの。

以上のように、ナンテの直前には動詞のテ形／連用形／終止形が生起できる。

4.1.4. 形容詞（連用形／終止形／命令形）

ナンテの直前には、形容詞の連用形／終止形／命令形が生起可能である。まずは、連用形が生起する例を(57)に示す。このとき、「形容詞の連用形＋ナンテ＋ない」の形をとる。

(57)　a.　君はつまんなく**なんて**ないよ。

b.　彼の絵はまったく美しく**なんて**ない。

また、(58)のようにナンテの直前には形容詞の終止形が生起する。

(58)　a.　彼がかっこいい**なんて**言ってたのは誰だっけ？
b.　キリンは首が長い**なんて**当然だ。

(59)の通り、形容詞の命令形も直前に生起可能である。

(59)　うちのおじいちゃんはよく美しかれ**なんて**言ってたな。

このように、ナンテの直前には、形容詞の連用形／終止形／命令形が生起できる。

4.1.5. 副詞

ナンテの直前には、副詞が生起可能である。(60)に、その例を示す。

(60)　a.　彼ってばおっちょこちょいでちっともしっかり**なんて**してないのよ。
b.　こんな時なのに、ゆっくりと**なんて**走っていられない。
c.　太郎は小心者だから、みんなの前で堂々と**なんて**できない。

しかし、(61)のように副詞によっては生起できない場合もある。

(61)　a.　*彼女は割と**なんて**食べないね。
b.　*太郎はかなり**なんて**元気じゃなかったなあ。

このように、ナンテの直前には副詞が生起可能であるが、その容認性は副詞の種類によって変わることもある。

4.1.6. 終助詞

ナンテの直前には、終助詞が生起可能である。この場合、(62a)のような疑問を表わすカ以外は、文を引用する形がほとんどである。このようなナンテと引用の関係に関しては、澤田(2007)に詳しい。

(62)　a.　僕はどうすればいいか**なんて**知らないよ。
b.　太郎は絶対許さないぞ**なんて**言ってへそを曲げているよ。

c.　マラソンで一緒に走ろうね**なんて**約束は信じない方がいい。

このように、ナンテの直前には終助詞が生起できる。

4.1.7. 助動詞ダ

ナンテの直前には、断定の助動詞ダが生起可能である。(63)で、例を示す。

(63)　a.　明日の大会が中止だ**なんて**聞いてない。
　　b.　彼が優勝だ**なんて**今でも信じられない。

(64)のように、ダの丁寧表現であるデスも生起可能である。

(64)　　私があなたの本当の父親です**なんて**いきなり言われても……。

このように、ナンテの直前には、断定の助動詞ダ（もしくはデス）が生起できる。

4.2. ナンテの直後に生起可能な要素

(10b)では、ナンテの直後には、名詞／動詞／形容詞／副詞が生起可能であると主張している。以下で、例を見ていく。

4.2.1. 名詞

ナンテの直後には、(65)のように名詞が生起する。

(65)　a.　ココア**なんて**甘いもの飲めません。
　　b.　彼**なんて**意気地無しだ。
　　c.　今どきカセット**なんて**貴重品だ。

このように、ナンテの直後には名詞が生起可能である。

4.2.2. 動詞

ナンテの直後には、次の例のように動詞が生起可能である。

(66)　a.　もう彼**なんて**食べ始めているよ。
　　b.　犬**なんて**喜んでそこらじゅうを走り回っている。
　　c.　ひよこ**なんて**飛べないよ。

このように、ナンテの直後には動詞が生起可能である。

4.2.3. 形容詞

ナンテの直後には、次の例のように形容詞が生起可能である。

(67)　a.　彼女の腹の底**なんて**薄汚いぞ。
　　b.　こんなお金**なんて**欲しくない。
　　c.　あの絵**なんて**美しいわ。

このように、ナンテの直後には形容詞が生起できる。

4.2.4. 副詞

ナンテの直後には、次の例のように副詞が生起可能である。

(68)　a.　太郎**なんて**まだ寝ている。
　　b.　彼女のこと**なんて**すっかり忘れてるだろうな。
　　c.　彼の成績**なんて**かなりひどいぞ。

このように、ナンテの直後には副詞が生起できる。

4.3. ナンテの直後に生起不可能な要素

(10b)では、ナンテの直後には、格助詞、終助詞、助動詞ダは生起不可能であると述べている。以下で、例を述べていく。

4.3.1. 格助詞

ナンテの直後に、格助詞は生起しない。(69)にその例を示す。

(69)　a.　*この辛さが彼女**なんて**にこれがわかるわけない。
　　b.　*海**なんて**へ行きたい。
　　c.　*彼の顔**なんて**を見たくない。
　　d.　*君**なんて**が花子と付き合えるわけがない。
　　e.　*彼**なんて**と言い争いして勝てるわけないよ。

格助詞がナンテの直前に生起する場合と違い、どのような格助詞もナンテの直後には生起

不可能である。

4.3.2. 終助詞

(70)のように、ナンテの直後に、終助詞は生起しない。

(70) a. *君が犯人**なんて**か？
b. *悪いのはあいつだ**なんて**ぞ。

このように、ナンテの直後に終助詞は生起不可能である。

4.3.3. 助動詞ダ

ナンテの直後には、(71)のように断定の助動詞ダは生起しない。

(71) *私の趣味は走ったり**なんて**だ。

ダの丁寧表現であるデスも同様に生起しない。

(72) *特技はダンス**なんて**です。

また、(73a)のようにダと似た機能を持つデアルもナンテの直後には生起しない。また、デアルの否定形、デハナイの口語表現であるジャナイも(73b)のように生起不可能である。

(73) a. *君は卑怯者**なんて**ではない。
b. *僕は馬鹿**なんて**じゃない！

以上のように、ナンテの直後には、助動詞ダは生起できない。また、ダに類似したデアル、デアルの口語的な否定表現ジャナイもナンテの直後には生起不可能である。

5. 考察

5.1. 記述のまとめ

これまでは、例文を用いて、(9)および(10)の一般化が妥当であることを示してきた。

(9) a. ナンカの直前には、名詞、格助詞、動詞（テ形／連用形）、形容詞（連用形）、副詞が生起可能であり、終助詞、助動詞ダ、動詞（終止形／命令形）、形容詞（終止形／命令形）は生起不可能である。
b. ナンカの直後には、名詞、格助詞、終助詞、助動詞ダ、動詞、形容詞、副詞が生起可能である。

(10) a. ナンテの直前には、名詞、格助詞、動詞（テ形／連用形／終止形）、形容詞（連用形／終止形／命令形）、副詞、終助詞、助動詞ダが生起可能である。
b. ナンテの直後には、名詞、動詞、形容詞、副詞が生起可能であり、格助詞、終助詞、助動詞ダは生起不可能である。

この観察を構造的な観点からとらえなおすと、(9)は(74)に、(10)は(75)のようになる。

(74) ナンカは NP／VP／AP に接続し、取り立て詞としての役割を果たす。ナンカは CP には接続しない。

(75) a. ナンテは NP／CP に接続し、取り立て詞としての役割を果たす。このとき、その直後に形式名詞 ϕ を持つことができる。
b. ナンテは VP／AP に接続し、取り立て詞としての役割を果たす。

こうすることで、品詞ごとに言及せざるを得なかった部分を、簡潔に言い表すことが可能となる。なお、動詞と形容詞に関しては、活用ごとに接続できるかどうかの差異が存在していたが、それによってナンカ／ナンテが接続する語が変化するということはなく、構造的に変化は生じないため、(74)、(75)では活用ごとのでの差異は考慮せず VP、AP とだけ表わしている。また、(9)、(10)ではナンカとナンテの直前に副詞が生起できることを述べているが、副詞の種類によっては生起できず、どのような副詞が生起できるのかといった観察が今回は不十分であるため、(74)、(75)では言及していない。

本論文において「取り立て」としている機能は、文中のある要素を強調し、話し手の主観を附属させる働きである。取り立て詞の機能について、寺村(1991)は「文中のいろいろな構成要素をきわだたせ、なんらかの対比的効果をもたらす(P. 13)」と述べ、山中(1995)

は「話し手が信念内の様々なカテゴリーの中で、文中で明示した要素をどのように把えているのかを表示する働きをする(p. 209)」と仮定している。本論文での取り立ての機能も、これらの考えとほとんど相違はない。なお、本論文でのナンカとナンテの取り立て詞としての共通する意味的機能として、以下の二つを提示する。

(76) a. 例示：取り立てた要素を、例として示す。
b. 軽視：話し手の軽視の意図を示す。

次に、(75a)の「ナンテはその直後に形式名詞φを持つことができる」ということについて詳しく述べていく。本論文では、ナンテはナンカが持っていない機能を持つと考えたい。それは、「X ナンテ Y」という表現の場合、ナンテがその後に続く名詞 Y の中から X を取り立て、例示するという機能である。たとえば、(77)を見てほしい。

(77) どうして掃除**なんて**面倒くさい仕事押しつけられたんだろう。

(77)では、「面倒くさい仕事」が「掃除」という要素を含む集合であると考えたい。先ほど述べたナンテの機能を用いると、ここでナンテは「掃除」という要素を「面倒くさい仕事」の中から取り立て、例示していると考えられる。しかし、(78)のようにナンテの後に要素の集合である名詞を含まない場合も存在する。

(78) 勉強**なんて**楽しくない。

このとき、「勉強」という要素を含む集合を表わす名詞は、少なくとも音声上は、文中に存在しない。しかし、(75a)の通り、ナンテは形式名詞φを直後に持つことができるとすれば、ナンテの後にはφが存在すると考えられる。そして、このφが、「勉強」という要素を含む集合を表わす名詞としての役割を果たす、と考えたい。つまり(78)は(79)のようになっているのである。

(79) 勉強　なんて　φ　楽しくない。

φは「勉強」が属する集合であり、音声上では現れていない。音声上は名詞が現れていない場合でも、ナンテがφを持つことで、文中から要素を取り立て例示する、ということが可能になると考えたい。このように、本論文では、ナンテが「X ナンテ Y」という表現の場合、後に続く名詞 Y の中から X を取り立て、例示するという機能があると考え、取り立てる要素の集合である名詞が文中に現れていない場合はナンテ自身が名詞φを持っている、

と仮定する。

5.2. ナンカの統語的性質

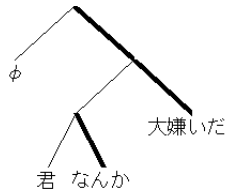
以下では、(74)の主張に言及していく。

(74) ナンカは NP／VP／AP に接続し、取り立て詞としての役割を果たす。ナンカは CP には接続しない。

5.2.1. ナンカは NP に接続し、取り立て詞としての役割を果たす

(9a)より、ナンカの直前には、名詞、格助詞が生起する。これを構造的に見ると、ナンカは NP に接続可能だと言い換えることができる。以下で、例を見ながらこの主張について述べていく。(80a)はナンカの直前に名詞句が生起している例である。(80a)の構造を(80b)に示している。(80c)はナンカを一般的に取り立て詞とされているハと言い換えた例であるが、容認可能であることから、ハと言い換えが可能だとわかる。これは、ナンカが位置的に取り立て詞の位置に現れているためだと考えられる。また、(80a)は(80d)よりも、話し手が「君」を軽んじているということがはっきりしている。これはナンカが用いられているためであり、ナンカが軽視を含意して取り立て詞としての役割を果たしているからだと考えたい。

(80) a. 君**なんか**大嫌いだ。
b.



c. 君は大嫌いだ。
d. 君が大嫌いだ。

(81)-(83)の例も、主張(74)を用いて説明可能である。

(81) a. お金**なんか**欲しくない。
b. 逆上がり**なんか**簡単だ。
c. あなたとペア**なんか**組みたくない。

d. 彼からのプレゼント**なんか**もらったことがないよ。
e. ここで失敗**なんか**許されない。
f. 僕**なんか**まだ九九を全部言えないよ。

(82) a. このクラスでは、太郎**なんか**が足が速い。
b. 大人**なんか**の言うことは聞かない。
c. あんなにひどい人**なんか**を愛せない。
d. 食費**なんか**より趣味につぎ込むお金の方が高い。

(83) a. 謝ってすむこと**なんか**ではない。
b. 彼は神様**なんか**ではない。
c. あのときの辛さと言ったら、こんなもん**なんか**ではなかった。
d. 彼は悪い奴**なんか**ではない。

(84)のように否定的な文でない場合は、ナンカは意味的に例示としての役割を果たすときが多い。

(84) a. この本**なんか**おすすめだ。
b. 母親との思い出**なんか**、たくさんある。
c. 猫**なんか**かわいい。
d. 彼女には赤**なんか**似合うんじゃない？
e. 彼は物理は得意だが、化学**なんか**てんでダメだ。
f. 球技は苦手だけど、かけっこ**なんか**自信があるよ。
g. 僕**なんか**もう九九を全部言えるよ。
h. 私のお父さん**なんか**お医者さんなんだから。

(85)-(90)は格助詞がナンカの直前に生起している例である。格助詞は名詞に接続し、「名詞＋格助詞」は名詞句であるため、格助詞がナンカの直前に生起できるというのは、構造的に言い換えると、ナンカが NP に接続できるということである。

(85) a. 彼女に**なんか**知らせない。

(86) a. 遠くへ**なんか**行きたくない。
b. 彼へ**なんか**プレゼントしたくない。

(87) こんな格好で**なんか**外に出られない。

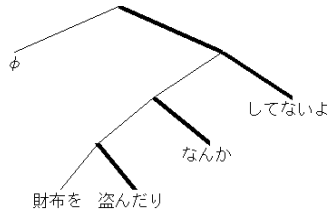
(88) a. 私の学校から**なんか**いい大学に行けないよ。
b. こんな状態から**なんか**挽回できるわけがない。

(89) 彼のような人に**なんか**幸せになってほしい。

(90) a. 彼女のような人と**なんか**結婚したい。
b. 花子と**なんか**遊びたくない。

次に、ナンカが動詞のタリ形に接続するときの例を見ていく。本論文では、動詞のタリ形も名詞として扱うので、これも NP だと考えたい。

(91) a. 財布を盗んだり**なんか**してないよ。
b.



c. 財布を盗んだりはしないよ。
d. 財布を盗んだりしないよ。

(91b)は(91a)の構造を示している。(91c)はナンカを一般的に取り立て詞とされているハと言い換えた例である。この例からわかるようにナンカはハと言い換えが可能である。これは、ナンカが取り立て詞の位置に現れているからだと考えられる。また、ナンカが用いられていない(91d)と比較して、(91a)では、「財布を盗む」という行為を話し手が軽視しているということが明確である。これはナンカが意味的に取り立て詞として機能しているからだと考えたい。このように、ナンカはタリ形に接続する場合も取り立て詞としての役割を果たす。以下の例も、(74)を用いて説明が可能である。

(92) a. もう迷ったり**なんか**しない。
b. 彼は死んだり**なんか**してない。
c. 遅刻したり**なんか**したら怒るからね。

d. 君はよく走ったり**なんか**する？

(93) a. ここであきらめたり**なんか**したら絶対後悔する。
b. 泣かしたり**なんか**したら許さないぞ。
c. 若いころはよく徹夜で麻雀したり**なんか**して遊んだもんだ。
d. 消しゴム２個持ってたり**なんか**したら貸してほしい。

これらのことから、ナンカは取り立て詞として NP に接続すると考えられる。

5.2.2. ナンカは VP に接続し、取り立て詞としての役割を果たす

(9a)より、ナンカの直前には動詞のテ形と連用形が生起する。この現象を構造的な観点から考えると、ナンカは VP に接続できる、と解釈できる。

まずは、(94a)のようにナンカの直前に動詞のテ形が生起する例を見ていく。(94b)はナンカを一般的に取り立て詞とされているハと言い換えた例である。(94b)が容認可能であることから、ナンカはハと言い換え可能であるとわかる。これはナンカが取り立て詞の位置に現れているためだと考えたい。(94a)と(94c)を比べてみると、(94a)は話し手が「泣く」という行為を軽視していることがはっきりしている。これは、ナンカが取り立て詞として軽視の意味を持っているためだと考えられる。

(94) a. 泣いて**なんか**ない。
b. 泣いてはない。
c. 泣いてない。

以下の例も、主張(74)を用いて説明ができる。

(95) a. あの秘密を知られて**なんか**いない。
b. いつまでも拗ねて**なんか**いないで、でてきなさいな。
c. ジャンクフードばかり食べて**なんか**いないで、もっと栄養あるものを食べなさい。
d. 私だったら、ここで間違えたり**なんか**しないな。

次に、(96)のようにナンカの直前に動詞の連用形が生起する例を見ていく。(96b)はナンカを一般的に取り立て詞とされているハと言い換えた例である。(96b)が容認可能であるから、ナンカはハと言い換え可能であるとわかる。これは、ナンカは取り立て詞の位置に現れているためだと言える。また、(96a)と(96c)を比較すると、ナンカが用いられている(96a)では話し手の軽視が含意されているのに対し、(96c)ではそういった含意は全く感じられない。これは、ナンカが取り立て詞として軽視の意味を含んでいるためだと考えられる。

(96) a. 怪我をしてるときに走り**なんか**しない。
b. 怪我をしてるときに走りはしない。
c. 怪我をしてるときに走らない。

(97)の例も、同じように主張(74)で説明ができる。

(97) a. 彼女の悪口を言い**なんか**しないよ。
b. ペットを飼い**なんか**しない。
c. こんなときに遊び**なんか**しない。

このように、ナンカは VP に接続し、取り立て詞としての役割を果たしていると考えられる。

5.2.3. ナンカは AP に接続し、取り立て詞としての役割を果たす

(9a)より、ナンカの直前には形容詞の連用形が生起できる。これを構造的な観点から言い換えると、ナンカが AP に接続する、と言える。以下でその例を見ていく。

(98a)と(98b)を比較してわかるようにナンカは取り立て詞であるハと言い換え可能である。これは、ナンカが取り立て詞の位置に現れているからだということが考えられる。(98a)と(98c)を比べると、(98a)ではナンカが「楽しく」という要素を軽視していることが明確である。このように、ナンカは取り立て詞として機能していると考えられる。

(98) a. 小さい頃は辛いだけで、楽しく**なんか**なかった。
b. 小さい頃は辛いだけで楽しくはなかった。
c. 小さい頃は辛いだけで楽しくなかった。

(99)でも、(74)の主張を説明に用いることができる。

(99) a.この本は面白く**なんか**ない。
b. 一人でも怖く**なんか**ない。
c. 見たく**なんか**ない！
d. そんなこと知りたく**なんか**なかった。

このように、ナンカは取り立て詞として AP に接続すると考えられる。

5.2.4. ナンカは CP には接続しない

(9a)から、ナンカの直前には、動詞・形容詞の終止形、助動詞ダ、終助詞が生起不可能である。一般的に、動詞・形容詞の終止形、助動詞ダ、終助詞は、文の最後に生起する。このことから、これらの現象を構造的な観点から見ると、ナンカは CP に接続できないと言うことができる。(100)に、埋め込み文がナンカの直前に生起できない例を示す。

(100) a. *明日が本番だ**なんか**嘘みたいだ。
b. *彼が事故にあった**なんか**信じられない。
c. *月が奇麗**なんか**ロマンチックね。
d. *ギターが趣味だ**なんか**かっこいい。
e. *受験に落ちたのか**なんか**聞けないよ。

このように、ナンカは CP に接続できないと考えることができる。

5.3. ナンテの統語的性質

ここからは、主張(75)について、例文を見ながら言及していく。

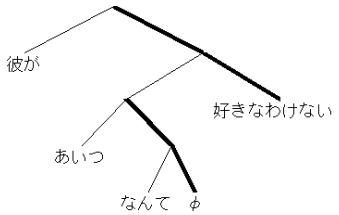
(75) a. ナンテは NP／CP に接続し、取り立て詞としての役割を果たす。このとき、ナンテはその直後に形式名詞 φ を持つことができる。
b. ナンテは VP／AP に接続し、取り立て詞としての役割を果たす。

5.3.1. NP に接続する場合

(10a)で述べたように、ナンテの直前に名詞、格助詞が生起可能である。この事実を構造的に見ると、ナンテは NP に接続すると言い換えることができる。

まずは、(101a)のように、ナンテの直前に名詞が生起する例を観察し、ナンテがどのように名詞句に接続しているかについて述べていく。ナンテの直前に名詞が生起可能ということは、すなわち、ナンテが NP に接続するということである。(101a)では、ナンテは「あいつ」という要素を、「あいつ」が含まれる集合から取り立てていると考えたい。しかし、ナンテの後にその集合を表わす要素は存在していない。この場合、主張(75a)より、ナンテがその直後に名詞 φ を持つと考えられる。よって、(101a)の構造は(101b)のように表わすことが可能となる。

(101) a. 彼があいつ**なんて**好きなわけない。
b.



c. 彼があいつを好きなわけがない。

φ は「あいつ」という要素が含まれている集合を表わす形式名詞である。ナンテは「あいつ」という要素を、φ から取り立て、例示していると考えたい。また、(101a)とナンテが用いられていない(101c)を比べると、(101a)では、話し手が「あいつ」を軽視しているということがわかるのに対して、(101c)では必ずしもそうと言えない。これは、ナンテが話し手の「あいつ」に対する軽視の意思を含意しているからだと考えられる。つまり、(101a)では、ナンテは軽視と例示の両方の働きをしていると言える。

(102)も、上記と同様に主張(75)で説明することができる。

(102) a. 煙草**なんて**百害あって一利なしだ。
b. あなたとペア**なんて**組みたくない。
c. 彼からのプレゼント**なんて**もらったことがないよ。

(103)は、ナンテに軽視の意味が含まれていない例である。この場合、ナンテは例示の働きのみをすると考えたい。

(103) a. この映画**なんて**面白かった。
b. 母親との思い出**なんて**、たくさんある。
c. 犬**なんて**かわいい。
d. 彼女には赤**なんて**似合うんじゃない？
e. 彼は物理は得意だが、化学**なんて**てんでダメだ。

(104)は、ナンテの直後に、取り立てられる名詞を含む要素の集合が生起している例である。

(104) a. うさぎ**なんて**かわいい動物が好きです。
b. バラ**なんて**きれいな花を庭に植えたい。
c. ブランド物のバッグ**なんて**高級品をこんなところに持ってこれない。

d.　花子が作ったクッキー**なんて**まずいもの食べられない。

(105)から(108)で示すように、ナンテの直前には格助詞が生起可能である。これも言い換えると、ナンテが NP に接続できると言える

(105) a.　彼女に**なんて**知らせない。
b.　彼のような人に**なんて**幸せになってほしい。

(106) a.　遠く**へなんて**行きたくない。
b.　どうせ返事もくれないんだから、太郎へ**なんて**手紙を書きたくない。
c.　好きな人へ**なんて**この歌を贈りたい。

(107) a.　花子と**なんて**遊びたくない。
b.　彼女と**なんて**話してみたら？。
c.　芸能人と**なんて話**したことない。

(108) a.　今度の大会にこんな靴で**なんて**出場できない。
b.　こんなに短い鉛筆で**なんて**字は書けないよ。

次に、ナンテの直後に格助詞が生起できない例を観察し、(75)の、ナンテは NP に接続する場合、その直後に形式名詞φを持つことができる、という主張について述べていく。(109)は(10b)で述べたように、ナンテの直後に格助詞が生起できないことを示す例である。

(109)　*君**なんて**が出世するとはねえ。

このときも、ナンテは「君」という要素を「君」を含む集合を表わす要素から取り立てて例示していると考えたい。しかし、ナンテの後に集合を表わす要素が存在しないため、主張(75a)からナンテは形式名詞φを持つとしたい。格助詞の前には必ず音形を持った名詞が現れるが、名詞φは音形を持たない。よって、ナンテの後に格助詞が生起すると、結果として音形を持たない名詞φの後ろに続いてしまうことになり、容認不可能な文となる、と考えたい。

以下の(110)、(111)の例文でも、同様の解釈が可能である。

(110) a.　*今日は寒いから半そで**なんて**で外に出たら風邪ひくよ。
b.　*暑いからプールや海**なんて**へ行きたいな。

c.　*彼女**なんて**と話しても無駄だ。

(111) a.　*大人**なんて**の言うことは聞かない。
b.　*今日は本**なんて**を読んで過ごそう。
c.　*僕**なんて**より君の方が断然素敵だよ。
d.　*彼は自己破産**なんて**から立ち直れるかな。

次に、ナンテの直後に助動詞ダやデアルが生起できない例を観察し、(75a)の主張について述べていく。(112)は(10b)で述べたように、ナンテの直後にデアルの否定形デハナイが生起できないことを示す例である。

(112)　*太郎は犯人**なんて**ではない。

上の例文において、ナンテは「太郎」という要素を、「太郎」が含まれる集合から取り立てて例示していると考えたい。しかし、(112)ではナンテの後に集合を表わす要素が存在しないため、主張(75a)からナンテは形式名詞φを持つと考えられる。断定のデアルの前には必ず音形を持った名詞が必要だが、名詞φは音形を持たない。よって、ナンテの直前にデアルの否定形であるデハナイの後に生起すると、結果として音形を持たない名詞φの後ろにデハナイが続いてしまうことになり、容認不可能な文となる、と考えることが可能である。

(113)、(114)でも同様に考えられる。

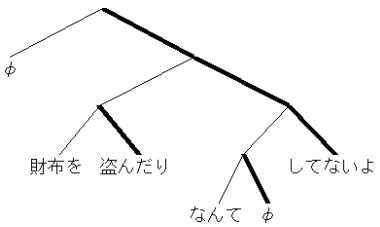
(113) a.　*今日は不運**なんて**じゃなかった。
b.　*彼は悪い奴**なんて**ではない。

(114) a.　「昨日はどんなことをしたんですか？」「*歌ったり踊ったり**なんて**です」。
b.　*彼の趣味は走ったり泳いだり**なんて**だ。

また、動詞のタリ形も名詞だと考えると、ナンテは動詞のタリ形に接続するときも、形式名詞φを持つことができると考えたい。(115a)では、ナンテの後に「財布を盗んだり」という要素を含む集合を表わす要素は生起していない。(75a)より、ナンテはその直後にφを持つと考えられる。よって、(115a)の例ではナンテが「財布を盗む」という要素をφの中から取り上げ、例示していると考えられる。このとき、(115a)の構造は、(115b)のように表わすことができる。

(115) a.　財布を盗んだり**なんて**してないよ。

b.



(116)　財布を盗んでいないよ。

また、(115a)は(116)と比べて、話し手の「財布を盗む」という行為を軽視しているということが明確である。これは、ナンテが取り立て詞として軽視の意味を含むからだと考えられる。

(117)の例も、主張(75)で説明することができる。

(117) a.　泣いたり**なんて**しない。

b.　泣いたり**なんて**できない。

c.　もう迷ったり**なんて**しない。

d.　彼は死んだり**なんて**してない。

e.　あの秘密を知られたり**なんて**してない。

このように、ナンテは NP に接続し、必要な場合は形式名詞φを持つことができると考えられる。

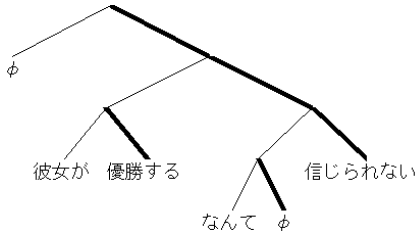
5.3.2. CP に接続する場合

(10a)から、ナンテの直前には、動詞・形容詞の終止形と命令形、助動詞ダ、終助詞が生起できる。一般的に、動詞・形容詞の終止形と命令形、助動詞ダ、終助詞は、文の最後に生起する。このことから、これらの現象を構造的に見ると、ナンテは CP に接続できると考える。(118)で、ナンテが CP に接続できる例を示すと同時に、ナンテが形式名詞φを持つ、ということについて述べていく。

ナンテが形式名詞φを持ち CP に接続していると考えると、(118a)の構造は(118b)のように表わすことが可能である。

(118) a.　彼女が優勝する**なんて**信じられない。

b.



(118a)では、動詞の終止形がナンテの直前に生起している。動詞の終止形が用いられているのは「彼女が優勝する」という埋め込み文の文末である。ここでナンテは、「彼女が優勝する」という要素を、それが所属する集合から取り立てて例示していると考えたい。しかし、ナンテの後に集合を表わす要素は存在していない。そこで、(75a)から、この場合ナンテはその直後に形式名詞φをもつことで、「埋め込み文＋ナンテ」が名詞句のような働きをし、「信じられない」という述部の項となることができると考えられる。そのため、埋め込み文がナンテに接続可能となる、と考えたい。このように、ナンテは CP に接続する際、形式名詞φを持ち、取り立て詞として機能すると考えることができる。

以下の例も、同じように主張(75a)を用いて解釈できる。

(119) a.　君とこうやって話せる**なんて**夢にも思わなかった。

b.　彼が賢い**なんて**うそだ。

(120) a.　ご飯がおいしい**なんて**幸せだ。

b.　こんな難しい問題が解ける**なんて**彼女はすごいな。

(121) a.　明日が雨だ**なんて**うれしくない。

b.　彼が棄権だ**なんて**信じられない。

(122) a.　花子が来るか**なんて**知らないよ。

b.　彼は絶対許さないぞ**なんて**言ってたよ

以上から、ナンテは CP に接続する場合、必要に応じてその直後に形式名詞φを持つと考えたい。

5.3.3. ナンテは VP に接続し、取り立て詞としての役割を果たす

(10a)より、ナンテの直前には、動詞のテ形と未然形が生起する。これを構造的な観点から考えると、ナンテは VP に接続できると言える。

まず、(123a)のように、ナンテが動詞のテ形に接続する例を見ていく。(123b)はナンテを一般的に取り立て詞とされているハと言い換えた例である。(123b)からナンテはハと言い換え可能であるとわかる。これはナンテが取り立て詞の位置に現れているからだと考えたい。(123a)と(123c)を比べてみると、(123a)は話し手が「見る」という行為を明らかに軽視しているのがわかるのに対して、(123c)ではそのような判断はできない。これは、ナンテが軽視の意味を含んで取り立て詞として機能しているからだと考えられる。

(123) a. 見て**なんて**いない。
b. 見てはいない。
c. 見ていない。

(124)、(125)も同様に考えられる。

(124) a. 今朝は寝坊して**なんて**いないよ。
b. 氷ははちっとも溶けて**なんて**いなかった。

(125) a. 太郎のケーキを食べて**なんて**いないよ。
b. 彼は人を殴って**なんて**いない。

次に、(126a)のようにナンテの直後に動詞の連用形に生起する例を見ていく。(126a)と(126b)を比較してわかるように、このナンテは一般的に取り立て詞とされるハと言い換え可能である。これは、ナンカが位置的に取り立て詞の位置にあるためだと言える。また、(126a)と(126c)を比較してみると、(126a)で話し手が「人の日記を勝手に見る」という行為を軽視していることがより顕著である。これはナンテが取り立て詞の機能を果たしているためだと考えられる。

(126) a. いくらなんでも人の日記を勝手に見**なんて**しないよ。
b. いくらなんでも人の日記を勝手に見はしないよ。
c. いくらなんでも人の日記を勝手に見ないよ。

(127)や(128)の例でも同じことが言える。

(127) a. あの人は何があっても死に**なんて**しない。
b. 彼女が勝手に消え**なんて**するもんか。

(128) a. 君との約束を破り**なんて**しないよ。
b. 僕だったら彼女を見捨て**なんて**しない。

以上のように、ナンテは VP に接続する場合、取り立て詞としての役割を果たす、と考えることができる。

また、ナンテが VP に接続する場合には、ナンテは「X ナンテ Y」という表現において、ナンテがその後に続く要素 Y の中から X を取り立て、例示するという機能はないと考えたい。ナンテがこの機能を果たすときは、(102)や(119)のように、「X ナンテ Y」という表現において X は項になるはずである。

(102) a. 煙草**なんて**百害あって一利なしだ。
b. あなたとペア**なんて**組みたくない。
c. 彼からのプレゼント**なんて**もらったことがないよ。

(119) a. 君とこうやって話せる**なんて**夢にも思わなかった。
b. 彼が賢い**なんて**うそだ。

しかし、V そのものは述部の項となることが不可能である。よって、ナンテが VP に接続する場合、NP や CP に接続するときに持つような例示の機能はないと考えられる。

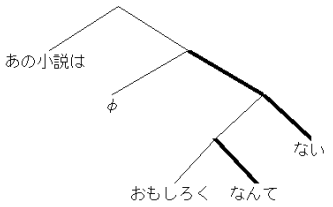
5.3.4. ナンテは AP に接続し、取り立て詞としての役割を果たす

(10a)から、ナンテの直前には形容詞の未然形が生起する。この現象を構造的に見ると、ナンテが AP に接続できると考えられる。以下で、例を見ていく。

(129a)では、ナンテの直後に形容詞の未然形が生起している。(129a)の構造は、(129b)のようになっている。(129a)と(129d)を比べると、「おもしろくなんてない」ということで、話し手が「あの小説」を軽視していることが含意されているということがはっきりとわかる。これは、ナンテが取り立て詞として機能しているからだと考えたい。ナンテは(129b)で観察できるように一般的に取り立て詞とされるハと言い換え可能である。これは、ナンテが取り立て詞の位置に現れているからだと考えられる。

(129) a. あの小説はおもしろく**なんて**ない。

b.



c. あの小説はおもしろくはない。
d. あの小説はおもしろくない。

(130)と(131)でも、ナンテは AP に接続し、取り立て詞として機能していると言える。

(130) a. 一人でも怖く**なんて**ない。
b. そんなもの欲しく**なんて**ないもんね。
c. 自慢してもうらやましく**なんて**ないもんね。

(131) a. まだ眠たく**なんて**ない。
b. そんなこと知りたく**なんて**なかった。

このように、ナンテは AP に接続し、取り立て詞としての役割を果たすと考えられる。
なお、AP も VP と同様に述部の項にはなれないため、ナンテが AP に接続する場合には、NP や CP に接続するときに持つような例示の機能はないと考えたい。

6. まとめ

本論文では、(3)と(4)の問題を提起し、例文を観察してきた。

(3) ナンカはどのような条件で生起可能か。また、ナンカの文中での働きは何か。

(4) ナンテはどのような条件で生起可能か。また、ナンテの文中での働きは何か。

そして、ナンカとナンテの直前／直後に生起する要素、しない要素を踏まえ、構造的な観点から(3)に対しては(74)を、(4)に対しては(75)を述べた。

(74) ナンカは NP／VP／AP に接続し、取り立て詞としての役割を果たす。ナンカは CP には接続しない。

(75) a. ナンテは NP／CP に接続し、取り立て詞としての役割を果たす。このとき、その直後に形式名詞 φ を持つことができる。
b. ナンテは VP／AP に接続し、取り立て詞としての役割を果たす。

これらの主張において、ナンカとナンテの間には、以下の違いが確認できる。

(132) a. ナンテはその直後に形式名詞 φ を持つことができるが、ナンカにはこの特性がない。
b. ナンカは CP に接続不可能であり、ナンテは接続可能である。

主張でこのような違いが確認できるのは、本論文で、ナンテがナンカにない機能を有すると考えたためである。それは、「X ナンテ Y」という表現の場合、ナンテがその後に続く名詞 Y の中から X を取り立て、例示する、という機能である。ナンテがこの機能を持っているため、ナンテは直後に形式名詞を持つことができ、CP に接続可能である、と考えたい。また、ナンカにはこの機能がないために、(133)の例文においてナンカは容認不可能である。

(133) a. 幹事｛*なんか／なんて｝めんどくさい仕事したくないなあ。
b. 高級レストラン｛*なんか／なんて｝堅苦しいところ私には向いていない。

このように、本論文では、ナンカとナンテにおいて、他の句への接続に違いが生じるのは、ナンテがナンカにない働きをするためである、と結論付けた。

謝辞

本論文を執筆するに当たり、担当教員の上山あゆみ先生には、非常な丁寧なご指導をいただきました。この場をお借りして深く感謝の意を申し上げます。また、九州大学文学部言語学研究室の池田則之氏には、論文執筆に際し、貴重なアドバイスを数多くいただきました。心から感謝申し上げます。もう卒論ナンカ書けない、と思い悩むときもありましたが、数多くの方々に支えられ、この論文の完成に至ることができました。本当にありがとうございました。

参照文献

井島正博 (2008)「クライ・ホド・ナド・ナンカ・ナンテの機能と構造」東京大学大学院人文社会系研究科国語研究室（編）『日本語学論集』(4)：42-97. 東京

川上恭子 (1991)「「何か」の不定対象と文形式」『園田語文』6：101-121.

澤田美恵子 (2007)『現代日本語における「とりたて助詞」の研究』東京：くろしお出版

寺村秀夫 (1991)『日本語のシンタクスと意味Ⅲ』東京：くろしお出版

日本語記述文法研究会 (2009)『現代日本語文法』5：119-128. 東京：くろしお出版

山田敏弘 (1995)「ナドとナンカとナンテ―話し手の評価を表すとりたて助詞―」宮島達雄・仁田義雄（編）『日本語類義表現の文法』上　単文編：335-344. 東京：くろしお出版.

山中美恵子 (1995)「「とりたて」という機能―「こそ」を中心に―」益岡隆志・野田尚史・沼田善子（編）『日本語の主題と取り立て』：209-226. 東京：くろしお出版